



## 一般社団法人 日本土壌肥料学会 2020 年度（第 43 回）通常総会<sup>注</sup>

[2020 年 5 月 9 日（土）13 時 00 分～14 時 10 分 東京大学山上会館]

### 次 第

開会

会長挨拶

議長選出

議 事

第 1 号議案 2019 年度事業報告、収支決算報告および監査報告

第 2 号議案 2020 年度事業計画案および収支予算案

第 3 号議案 総会議事録署名人の選任

その他 2020 年度年次大会（岡山）の開催について

閉 会

注) 2020 年度（第 43 回）通常総会は、新型コロナウイルス感染症のため、当初予定の対面開催ができなくなった。そこで、法人法第 58 条および本学会定款 18 条の規定に基づき第 1 号議案および第 2 号議案について総会のみなし決議を行い、2021 年 5 月 8 日にのみなし決議が成立した。

# 一般社団法人 日本土壌肥料学会 2020 年度通常総会

## 議事

### 第 1 号議案 2019 年度事業報告、事業報告の附属明細書、 収支決算報告および監査報告

#### I. 2019 年度事業報告 (2019 年 3 月 1 日～2020 年 2 月 29 日)

##### 1. 定期刊行物および資料の刊行

###### (1) 定期刊行物

- 1) 日本土壌肥料学雑誌 (会誌) は、第 90 巻第 2 号～6 号、第 91 巻第 1 号の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数は次の通りである。報文 22 編、ノート 11 編、技術レポート 8 編、講座 3 編、総説 1 編、資料・国内外情報等 26 編、学会賞受賞論文要旨 3 編、技術賞受賞論文要旨 1 編、奨励賞受賞論文要旨 5 編、技術奨励賞受賞論文要旨 3 編、ニュース (地域の動きを含む)、書評、欧文誌 Vol.65 掲載論文要旨、合計 565 頁、ほかに第 90 巻総目次、キーワード索引、著者名索引、会員消息、会誌投稿規程、原稿執筆規程、編集委員会だより、学会だより (土壌教育活動だよりを含む) 等。
- 2) SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION (欧文誌) は、Vol.65, No.2～No.6 および Vol.66, No.1 の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は、報文 72 編 (Full65 編、Short7 編)、総説 6、SSPN Award 等 5 編、会誌報文抄録等、合計 762 頁となった。欧文誌の配布数は、名誉会員 11、正会員 320 (うち海外 26)、学生会員 66 (うち留学生 65)、国内寄贈・交換 5、海外寄贈・交換 16 等であった。
- 3) 日本土壌肥料学会講演要旨集 (第 65 集、293 頁) を 2019 年度静岡大会 (9/3～5) に際し、電子媒体として刊行した。

###### (2) その他の刊行物

Springer 社より The Soils of Japan の刊行に向けて編集作業を進めた。

##### 2. 講演会および研究会等の開催、支援

###### (1) 「土と肥料」の講演会

2019 年 5 月 11 日、通常総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催した。テーマは「田んぼの土と肥料を考える～カリとイオウの欠乏を例として～」、講演者と演題は中田 均氏 (富山県農林水産総合研究センター) 「富山県におけるカリ不足土壌の現状と課題」および菅野均志氏 (東北大学大学院) 「水稻におけるイオウ欠乏の現状と対策」であった。本講演会は日本学術会議の後援を受けて実施した。

###### (2) 2019 年度年次大会

- 1) 2019 年 9 月 3 日 (火) ～5 日 (木)、静岡大学農学部 (静岡市) において年次大会を開催した。口頭発表題数は 249 題、ポスター発表題数は 212 題、合計 461 題であった。大会への参加者数は 762 名であった。
- 2) シンポジウムは、公開シンポジウムを含めて 6 つのテーマのシンポジウムを実施した。  
4,7,8 部門：気候変動型生理障害を植物栄養の視点から考える【農研機構との共催】  
3,4,6,7,8 部門：理想の農業を追求するーサステイナブルで革新的な食糧生産を支える基礎研究と現場技術

- 6,7,8 部門：土壤肥沃度の長期的変動の評価と管理—パラダイムシフトの時代に—
- 4 部門：【公開シンポジウム】静岡のスマート農業の今とこれから
- 1,6 部門：水田作の大規模化に対応した土壤物理性の診断と対策～データ駆動型水分管理を見据えて～
- 1,2,3,8 部門：土壤団粒構造と土壤プロセス 2
- 3) ミニシンポジウムは、以下に示すテーマについて実施した。
- 5 部門：日本土壤インベントリーの利活用に向けた制度づくりと土壤図の精度向上を目指して
- 9 部門：土壤教育の世界標準を日本から発信する
- 4) 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップにおいて、以下の講演が行われた (9/4)。
- 第 64 回日本土壤肥料学会賞受賞者
- ・高橋 正：火山灰土壤の多様性の解明—アルミニウム-腐植複合体の機能を中心に—
  - ・豊田剛己：連作障害の原因となる土壤伝染性病原菌・線虫の生態、診断、防除に関する研究
  - ・早津雅仁：土壤微生物の物質変換機構の解析とその未知機構解明への展開
- 第 24 回日本土壤肥料学会技術賞受賞者
- ・原 嘉隆：水稻湛水直播のためのべんモリ種子被覆技術の開発
- 2019 (平成 31) 年度日本農学賞・讀賣農学賞受賞記念講演
- ・馬 建鋒：作物のミネラル輸送機構に関する研究
- 特別講演
- ・小崎 隆：R. Lal 博士の第 35 回日本国際賞受賞の意味するもの—今、国内外の土壤・植物栄養学コミュニティは何をなすべきか—
  - ・Rattan Lal：Managing Soils for a Negative Feedback to Global Carbon Cycle and a Positive Impact on Food and Nutritional Security (地球の炭素循環に負のフィードバックを与え食料保障・栄養保障に正のインパクトを与える土壤管理を)
- 5) 第 37 回日本土壤肥料学会奨励賞受賞者 (須田碧海、西田 翔、仁科一哉、増田寛志、横正健剛) 及び第 8 回日本土壤肥料学会技術奨励賞受賞者 (齋藤 隆、速水 悠、安田知子) の記念講演については、静岡大会一般講演会場で行われた。
- 6) 日本土壤肥料学雑誌論文賞受賞者 (金田吉弘・谷野弘和・高階史章・佐藤 孝・保田謙太郎、松中照夫・中村亜紀良・橋本亜弓) および SSPN Award 受賞者 (Mei Li・Michiko Yasuda・Hiroko Yamaya-Ito・Masumi Maeda・Nobumitsu Sasaki・Maki Nagata・Akihiro Suzuki・Shin Okazaki・Hitoshi Sekimoto・Tetsuya Yamada・Naoko Ohkama-Ohtsu・Tadashi Yokoyama) については、静岡大会ポスター会場に受賞記念ポスターを展示した。
- 7) 講演要旨集の大会期間中における冊子頒布をとりやめ、電子媒体 (PDF) を事前にダウンロードする方式を初めて採用した。
- (3) 2019 年度支部大会
- ・北海道支部：第 1 回支部評議員会 (6/6 北海道大学)、第 22 回野外巡検 (8/29、8/30 余市町、小樽市) を開催した。また、第 2 回支部評議員会、支部総会、秋季支部大会 (12/3 民活動振興センター「かでの 2・7」、札幌市) を開催した。野外巡検では土壤の色と分類 (褐色森林土、暗赤色土 (富塩基土)) をテーマとし、15 名が参加した。秋季支部大会には発表演題数 33 に加え、高校生による研究発表 1 件があった。支部シンポジウムでは、「国際土壤の 10 年に向けて-環境問題と土壤肥料-」をテーマとして 5 題の講演が行われた。
  - ・東北支部：東北支部大会 (7/2～3 南相馬市民情報センター) では、支部役員会、支部総会、一般講演 (10 題)、ポスター発表 (17 題)、学会賞等受賞記念講演 (2 題) が行われ、

優秀ポスター賞 2 題を選定して情報交換会で表彰した。また、公開シンポジウム「福島県における除染後農地の現状と農業復興に向けた取組」を行った。

- ・関東支部：関東支部長野大会（11/30 長野市生涯学習センター）を開催し、幹事会、総会、一般講演（49 題、全てポスター発表）、高校生による研究発表（2 題）、特別講演（2 題）を行った。
- ・中部支部：第 164 回中部支部評議員会および研究会（5/29 名古屋国際センター）、第 165 回中部支部評議員会および研究会（11/29 名古屋大学）、第 80 回総会、第 99 回例会（11/27 名古屋大学）を開催した。また、土壤教育活動事業として、「土の不思議にせまる！」（7/21 豊田市自然観察の森）、岡崎北高校「連携講座」（8/23 豊田市自然観察の森）を開催した。
- ・関西支部：2019 年度関西支部講演会（12/5 鳥取県立生涯学習センター）では、World Soil Day にあたることを冒頭に述べて開会し、30 題の口頭発表が行われた。支部役員会（12/6 同会場）では、支部講演会およびシンポジウムを World Soil Day 企画の一つとする案など、支部会の運営について議論した。
- ・九州支部：11/14 に農研機構九州沖縄農業研究センター本所において、2019 年度九州支部例会（一般講演 30 題、九州支部賞受賞記念講演 2 題）、2020 年度九州支部賞選考委員会、常議員会を開催し、11/15 に同会場で支部総会を行った。また、支部の会員活動助成として、「究極のどろだんご」体験実施事業の経費を補助した。

#### （4）その他

- ・日本地球惑星科学連合 2019 年度連合大会（5/26～30）のセッション「流域圏の物質輸送と栄養塩循環—源流域から沿岸海域まで—」を共催した。
- ・第 32 回環境工学連合講演会（5/21 日本学術会議講堂）を共催した。
- ・第 56 回アイソトープ・放射線研究発表会（7/3～5）を協賛した。
- ・第 29 回環境工学総合シンポジウム（6/25～28 万国津梁館）を協賛した。
- ・静岡大会において、農研機構との共催シンポジウム「気候変動型生理障害を植物栄養の視点から考える」を開催した（9/4）。
- ・第 63 回粘土科学討論会（9/10～12 埼玉大学）を共催した。
- ・第 35 回近赤外フォーラム（11/18～20 タワーホール船堀）を後援した。
- ・日本腐植物質学会第 35 回講演会（9/18～19 稚内総合文化センター小ホール）を協賛した。
- ・日本ペドロジー学会主催 2019 世界土壌デーイベント「土壌モノリス標本の展示解説」（12/1 国立科学博物館）を共催した。

### 3. 研究の奨励および研究業績の表彰

学会賞等選考委員会（10/18）、論文賞等選考委員会（10/18）および第 4 回理事会（10/19）において、日本農学賞の候補者、日本土壌肥料学会賞、同技術賞、同奨励賞、同技術奨励賞、同貢献賞、論文賞および SSPN Award の受賞者が以下のとおり選定された。

#### 第 65 回 日本土壌肥料学会賞受賞者

- ・浅川 晋：水田土壌生態系におけるメタンの生成・酸化に関わる微生物の生態に関する研究
- ・俵谷圭太郎：菌根共生系のリン応答と持続的作物生産・環境修復への応用研究
- ・藤嶽暢英：腐植物質の分析法，特徴付けおよび反応性に関する研究

#### 第 25 回 日本土壌肥料学会技術賞受賞者

- ・柴原藤善：水田生態系における土壌微生物バイオマス窒素の動態解明と環境負荷低減技術の開発および琵琶湖流域における水質保全効果の定量的評価
- ・須藤重人：農耕地温室効果ガスの高精度測定法開発と温暖化緩和策研究への活用

#### 第 38 回 日本土壤肥料学会奨励賞受賞者

- ・ 一家崇志：チャのゲノム情報整備と栄養生理学に関する研究
- ・ 泉 正範：オートファジーによる葉緑体の分解経路に関する研究
- ・ 田中伸裕：イネの無機栄養吸収蓄積と成長制御に関する分子生理遺伝学的研究
- ・ 李 哲揆：土壌中の有機物由来の炭素循環と、有機物施用による植物病害の抑止に関する微生物の研究
- ・ 山本昭範：農耕地における一酸化二窒素の生成経路の解明と発生削減策に関する研究

#### 第 9 回 日本土壤肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・ 蓮川博之：水田農業における温室効果ガス排出量削減技術の開発とその定量評価

#### 第 9 回 日本土壤肥料学会貢献賞受賞者

- ・ 原田靖生：変革期における新たな学会運営に向けた諸対応

#### 日本土壤肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・ 江口定夫、平野七恵：日本の消費者の食生活改善による反応性窒素排出削減ポテンシャルと国連 SDGs シナリオに沿った将来予測
- ・ 南雲俊之、森田明雄：茶園のもつ二酸化炭素吸収源機能

#### SSPN AWARD 受賞者

- ・ Yoko Masuda, Hideomi Itoh, Yutaka Shiratori, Keishi Senoo: Metatranscriptomic insights into microbial consortia driving methane metabolism in paddy soils

## 4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連携および協力

### (1) 日本農学会関係

- ・ 2019 年度日本農学会シンポジウム「SDGs を超える農学のブレイクスルー10/5」の開催に協力した。

### (2) 日本学術会議関係

- ・ 日本学術会議公開シンポジウム「サステイナブルな社会に向けた科学技術と自然界での炭素・水素・酸素・窒素の循環の調和」(4/12 日本学術会議講堂)を協賛した。
- ・ 日本学術会議土壌科学分科会・IUSS 分科会による公開シンポジウム「土と持続可能な開発目標 (SDGs) —アフリカの土・市街地の土—」を共催し、基調講演者として日本国際賞受賞の Rattan Lal 博士 (オハイオ州立大・名誉教授) を本学会が招聘した。

### (3) IUSS、ESAFS 等関係

- ・ 国際測地学・地球物理学連合 (IUGG) (7/26~31 フランス・パリ) に代表者を派遣した。
- ・ ESAFS (11/3~7 台北) に代表者および役員を派遣した。
- ・ IUSS の Commission/WG 会議 (2019/2~2020/3) に Commission Chair/Vice Chair と Working Group Chair を派遣した。

### (4) 定期刊行物の寄贈・交換

内外の研究機関に対して定期刊行物を寄贈・交換した。

- ・ 日本土壤肥料学雑誌 国内 10、国外 12
- ・ Soil Science and Plant Nutrition 国内 5、国外 16

## 5. 本学会の委員会等活動

### (1) 企画委員会

- ・「土と肥料」の講演会を企画し、東京大学山上会館で開催した(5/11)。次年度も、2020年度第43回総会後(5/9)に「土と肥料」の講演会を開催し、日本学術会議の後援を受けるよう企画する。

### (2) 土壌教育委員会

- ・静岡大会において「高校生による研究発表会」を大会1日目の13:00~14:00に開催し(9/3)、14校18課題の発表が行われた。それぞれ発表者が説明し、大会参加者と熱心な質疑応答が行われ、最優秀ポスター賞1課題、優秀ポスター賞3課題を選出し表彰した。また、参加校のうち希望校7校に宿泊費の一部を補助した。
- ・女子中高生夏の学校2019ポスター展示・キャリア相談に委員が協力した。
- ・こどもエコクラブ全国一斉活動「大地を感じ・大地を知る ジオアクション JAPAN」の実施に当たり、(公財)日本環境協会こどもエコクラブ全国事務局からの協力依頼に対応し、アクションプログラムに係る監修・協力を行った。

### (3) 財政基盤整備委員会

- ・年度経常収支の逼迫が続いていることから、会員サービスおよび学会活動の維持・向上を図りつつ、学会財政の健全化を果たすため、課題の抽出と対応策の検討を継続している。

### (4) 広報

会誌の会告およびニュース、学会ホームページ(HP)、フェイスブック(FB)、メーリングリスト(ML)によって、学会の活動概要、各種募集情報、シンポジウム等イベント情報、年次大会・支部会開催情報等を発信している。

- ・学会HPに「土と肥料」の講演会概要等の記事および講演要旨等を掲載した。
- ・学会HPに2019年度日本土壌肥料学会賞等授賞式・記念講演会の概要を掲載した。
- ・会誌編集委員会と協働して学会HPに「日本土壌肥料学雑誌“講座”アーカイブ」および「日本土壌肥料学雑誌“シンポジウム概要”アーカイブ」を掲載した。
- ・学会HPに掲載した記事をFBにも掲載した。
- ・「エコプロ2019(12/5~7東京ビッグサイト)」に日本ペドロロジー学会とともにブースを出展した。ブースには幅広い世代の見学者の来訪およびマスコミの取材があった。

### (5) 国際土壌の10年関連活動

- ・2019年(第35回)日本国際賞受賞者のRattan Lal博士を招聘し、日本学術会議公開シンポジウムおよび2019年度日本土壌肥料学会静岡大会において特別講演を行うとともに、会誌記事、学会HP等を通じて受賞の意義と本学会の使命をアピールするなどの啓発活動を行った。講演会の概要、要旨、関連資料等は、学会HP、会誌、欧文誌にも掲載した。
- ・前年に引き続き、「国際土壌の10年」における日本土壌肥料学会の国際関連活動に対するご支援のお願いに関する趣意書、募集要項および支援申込書を作成し、会誌の発送に同封するとともにメーリングリストも活用し、寄付を呼び掛けた。

### (6) 男女共同参画学協会連絡会への対応

- ・女子中高生夏の学校2019ポスター展示・キャリア相談に出展した(8/10国立女性教育会館)。ポスター展示のテーマを「国際土壌年と国際土壌の10年」とし、実物の断面標本を用いて土壌の成り立ち、食糧・環境問題との関わり等を解説した。
- ・連絡会が企画する「男女共同参画学協会における女性構成比率調査に対応した。

## 6. 会務報告

### (1) 会員の動向

1) 2020年2月末日における会員数は次のとおりである。

正会員 1,723名（うち会費免除正会員 70名、外国正会員 26名）、賛助会員 37社、名誉会員 11名、学生会員 332名（うち留学生 71名）、国内団体購読会員 98団体 合計 2,201名・団体

2) 2019年度中の入退会者数は次のとおりである。

入会：正会員 60名（外国正会員 2名）、学生会員 116名（うち留学生 12名）、名誉会員 1名 合計 177名

退会：正会員 144名（うち会費免除会員 17名、外国正会員 10名）、学生会員 144名（うち留学生 24名）、名誉会員 2名、国内団体購読会員 3団体 合計 293名・団体

### (2) 会議

1) 総会：2019年5月11日、東京大学山上会館において第42回通常総会が開催された。本総会においては、①2018年度事業報告、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告、②2019年度事業計画案および収支予算案、③役員への信任・退任、④名誉会員の推薦、⑤総会議事録署名人の選任について審議され、原案どおり承認された。その議事録を会誌90巻第3号に掲載した。

2) 理事会：第42回総会後に総会会場において1回（5/11）、学会事務所において6回（5/25、8/3、10/19、12/14、1/25、3/21）開催され、所要の事項・会務を報告・審議した。その議事録を会誌のニュース欄に掲載した。主要な議題としては、年次大会での学会賞等授賞式並びに記念講演のタイムスケジュールおよびシンポジウムの構成、デジタル化する大会講演要旨集の準備、会誌および欧文誌の企画・投稿・編集・刊行の状況、欧文誌編集委員の増員、土壌教育委員会の諸活動、他学協会・機関とのイベントの共催・後援・協賛、ESAFS サポートオフィス HP の立ち上げ・小崎 IUSS 会長の活動支援・Japan Prize 受賞のラル博士の招聘と講演会開催などの国際活動関連の諸案件、若手会員海外渡航費の支援、等について審議し、実施した。

3) 部門長会議：①第1回部門長会議はメール会議で実施した。静岡大会におけるシンポジウムの公募に対して6件の応募があり、いずれも採択された。②第2回部門長会議（6/1）においては、静岡大会のプログラム編成、シンポジウム企画案、ポスター賞の各部門への割当数及び審査スケジュール、部門長・副部門長の交代等について検討した。③第3回部門長会議（10/24）においては、2019年度静岡大会から2020年度岡山大会への運営委員会引継ぎを踏まえた大会シンポジウム計画、進歩総説企画および欧文誌への部門長会議からの提案等について検討した。

4) 2019年度学会賞等選考委員会：学会事務所において、会長を議長として開催し、2020（令和2）年度日本農学賞候補者、第65回日本土壌肥料学会賞、第25回同技術賞、第38回同奨励賞、第9回同技術奨励賞および第9回同貢献賞の受賞者を選考した（10/18）。その結果は第4回理事会（10/19）での承認を経て、会誌90巻第6号に掲載した。また、同日午前、学会事務所において、論文賞等選考委員会を開催し、日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞論文と SSPN Award 受賞論文を選考した。その結果も第4回理事会での承認を経て、会誌90巻第6号に掲載した。

5) 会誌編集関係：①3回の会誌編集委員会を開催した（4/23、6/25、9/3）。②論文の投稿・審査状況に特に問題となる事項はないものの、よりスムーズな審査に向け審査システム・マニュアル上の課題を検討した。③2020年度以降の講座テーマを検討した。④技術レポート

- を中心に投稿規程・執筆規程を改定した。⑤会誌は第91巻1号(2020)まで、日本土壌肥料学会講演要旨集は第65集(静岡大会2019)までJ-STAGEに掲載した。会誌は発刊から1年後を目安に公開するが、会員はID・パスワードを入力すれば最新号から閲覧できるようにしている。また、講演要旨集は大会終了後できるだけ速やかに公開するようにしている。
- 6) 欧文誌編集関係：①2回の欧文誌編集委員会(5/11、9/3)を開催した。②投稿数は例年と変わらず、とくに問題はない。③部門長会議提案の企画投稿レビューを進めた。④学会賞受賞者によるレビューは4件を66巻1号に掲載した。⑤SSPN特集セクションでは、3件の企画を進め、このうち、Soil C and N by LUMC (Soil carbon and nitrogen dynamics by land use and management changes in East and Southwest Asian countries)は66巻1号に掲載した。⑥SSPNのインパクトファクターが2018年の1.128から1.415に上昇した。⑦T&F社の担当者が交代した。
- 7) 支部における会議
- ・北海道支部：第1回支部評議員会(6/6 於北海道大学、札幌市)、第2回支部評議員会、支部総会、秋季支部大会(12/3 於民活動振興センター「かでる2・7」、札幌市)が開催された。
  - ・東北支部：支部役員会および支部総会(7/2～3 於南相馬市民情報センター)が開催された。
  - ・関東支部：支部幹事会、支部総会(11/30 於長野市生涯学習センター)が開催された。
  - ・中部支部：第164回支部評議員会(5/29 於名古屋国際センター)、第165回支部評議員会(11/29 於名古屋大学)、第80回総会、第99回例会(11/27 於名古屋大学)が開催された。
  - ・関西支部：支部総会および支部役員会(12/5 於鳥取県立生涯学習センター)が開催された。
  - ・九州支部：支部常議員会、支部賞選考委員会(11/14 於農研機構九州沖縄農業研究センター一本所)および支部総会(11/15 於同会場)が開催された。
- 8) 支部長連絡会：支部・本部間、支部間の連携を深めるために支部長連絡会を開催し(9/5)、支部の情勢、会誌への支部動向の掲載、講演要旨のスタイル、年次大会持ち回りなどについて情報共有と意見の交換を行った。
- (3) その他
- ・若手会員の海外学会等の発表渡航費補助金支給者の選考を行い、前期14名の支援者を決定した。その後辞退者が2名あり、12名に渡航費の一部支援を行い、その報告を国内外情報として会誌に掲載した。後期の申請は0件であった。
  - ・2021年度年次大会は、信濃卓郎氏(北海道大)を大会運営委員長とし、2021年9月14(火)～16(木)、北海道大学において開催することを決定した。
  - ・外部顕彰へ学会より推薦を行い、馬建鋒会員が2019(平成31)年度日本農学賞・讀賣農学賞を受賞し、犬伏和之会員がESAFS Awardを受賞した。



## Ⅱ. 2019年度事業報告の附属明細書

事業報告の附属明細書として記載すべき事項はない。

### Ⅲ. 2019年度収支決算報告書

#### 一般正味財産増減の部

##### 1. 経常収益

予算額より 438 万円増の 5,582 万円であった。

(1) 予算額に対して増加割合の大きな科目

- ④受取会費／正会員受取会費は予算額より 117 万円増の 1,992 万円
- ⑤事業収益／欧文誌委託販売は 49 万円増の 399 万円
- 同／欧文誌投稿料・別刷代等は 160 万円増の 575 万円
- 同／支部大会収入は 92 万円増の 172 万円
- ⑧／受取寄付金振替額は 110 万円増の 110 万円

(2) 予算額に対して減少割合の大きな科目

- ④受取会費／学生会員受取会費は予算額より 17 万円減の 193 万円
- ⑤事業収益／会誌投稿料・別刷代等は 69 万円減の 201 万円

##### 2. 経常費用

予算額より 811 万円減の 5,133 万円であった。

(1) 予算額に対して増加割合の大きな支出科目

- ①事業費／年次大会／会場費は予算額より 27 万円増の 67 万円
- 同／年次大会／大会会計印刷費は 30 万円増
- 同／支部大会開催費は 105 万円増 235 万円

(2) 予算額に対して減少割合の大きな科目

- ①事業費／年次大会開催費／年次大会管理費は予算額より 82 万円減の 408 万円
- 同／年次大会開催費／その他雑費は 95 万円減の 23 万円
- 同／会誌刊行費／印刷製本費は 133 万円減の 527 万円
- 同／会誌刊行費／編集費は 130 万円減の 365 万円
- 同／各種委員会等運営費／土壌教育委員会は 57 万円減の 43 万円
- 同／国際交流費は 194 万円減の 146 万円
- ②管理費／租税公課は 39 万円減の 21 万円

この結果、当期経常増減額は、+449 万円の黒字であった。

経常収益では、受取会費の会費値上げ効果と着実な納入が図られ、会員数は減じたが、経常収益の減を免れた。また、年次大会では経常収益の大幅増が図られた。

経常費用では、その他の各事業の実施が諸事情により見合わされたこと、管理費支出においては、いっそうの節制が図られたことにより支出が抑えられた。

その結果、予算作成時に想定した赤字額（－800万円）は大幅に縮小され、黒字となった。

### 3. 経常外増減の部

なし

以上の結果、当期一般正味財産増減額は、＋449万円であった。

一般正味財産期首残高は1億3,927万円だったので、同期末残高は1億4,375万円となった。

### **指定正味財産増減の部**

国際関連活動基金としての当期受取寄付金32万円に、指定正味財産期首残高103万円を加えた金額135万円から、当期振替として110万円を一般正味財産に振替、国際交流費に充当した。この結果、指定正味財産期末残高は25万円となった。

以上の結果から、正味財産期末残高は1億4,400万円となった。

予算対比正味財産増減計算書  
2019年3月1日から2020年2月29日まで

1/2

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	400	847	△ 447	
基本財産受取利息	(400)	(847)	△ 447	
② 特定資産運用益	10,000	6,267	3,733	
特定資産受取利息	(10,000)	(6,267)	3,733	
③ 受取入会金	510,000	504,000	6,000	
受取入会金	(510,000)	(504,000)	6,000	3,000円×168人
④ 受取会費	26,560,000	27,810,500	△ 1,250,500	
正会員受取会費	(18,750,000)	(19,915,000)	△ 1,165,000	12,500円×1,550人、10,000円×54人
学生会員受取会費	(2,100,000)	(1,927,500)	172,500	7,500円×251人、6,000円×8人
団体会員受取会費	(1,900,000)	(2,000,000)	△ 100,000	20,000円×96団体、40,000円×2団体
欧文誌購読会費受取会費	(1,560,000)	(1,668,000)	△ 108,000	6,000円×278人
賛助会員受取会費	(2,250,000)	(2,300,000)	△ 50,000	50,000円×46口
⑤ 事業収益	24,200,000	26,177,253	△ 1,977,253	
会誌刊行等事業収益	(11,370,000)	(12,714,752)	△ 1,344,752	
会誌委託販売	(1,000,000)	(937,440)	62,560	養賢堂/会誌委託販売
会誌投稿料・別刷り代	(2,700,000)	(2,012,465)	687,535	90(2)～91(1)
欧文誌委託販売	(3,500,000)	(3,986,600)	△ 486,600	Taylor & Francis社ロイヤルティ
欧文誌投稿料・別刷り代	(4,150,000)	(5,745,862)	△ 1,595,862	65(2)～66(1)
出版物印税	(20,000)	(32,385)	△ 12,385	博友社/土壤環境分析法2018年度
大会収入	(11,130,000)	(10,960,566)	169,434	静岡大会決算に基づく
参加料	(5,100,000)	(4,970,000)	130,000	762名
発表料	(550,000)	(461,000)	89,000	1,000円×461題
懇親会費	(2,650,000)	(2,366,000)	284,000	349名
雑収入	(2,830,000)	(3,163,566)	△ 333,566	協賛金関連収入、静岡市補助金他
広告料収入	(900,000)	(784,800)	115,200	90(2)～91(1)
支部大会収入	(800,000)	(1,717,135)	△ 917,135	支部大会参加費、賛助金他含む
⑥ 受取補助金等	0	0	0	
⑦ 受取助成金	0	0	0	
⑧ 受取寄付金	110,000	1,202,630	△ 1,092,630	
受取寄付金	(110,000)	(102,630)	7,370	SSPN Award副賞(Taylor & Francis社)
受取寄附金振替額		(1,100,000)	△ 1,100,000	国際関連活動基金の取崩
⑨ 受託収入	0	0	0	
受託金	(0)	(0)	0	
⑩ 雑収入	50,000	118,143	△ 68,143	
受取利息	0	(315)	△ 315	普通預金利息
雑収益	(50,000)	(117,828)	△ 67,828	学術著作権協会他
経常収益計	51,440,400	55,819,640	△ 4,379,240	
(2) 経常費用				
① 事業費	38,750,880	31,764,974	6,985,906	
年次大会開催費	11,130,000	(8,958,476)	2,171,524	
会場費	(400,000)	(668,452)	△ 268,452	静岡大学規定に基づく
人件費	(1,200,000)	(664,000)	536,000	学生アルバイト
運営費	(800,000)	(479,562)	320,438	機材、運営諸費用
年次大会管理費	(4,900,000)	(4,082,808)	817,192	運営業務委託費等
大会関係印刷費	(0)	(304,800)	△ 304,800	参加証他印刷費用
懇親会費	(2,650,000)	(2,526,870)	123,130	
その他雑費	(1,180,000)	(231,984)	948,016	
会誌刊行費	13,350,000	(10,551,018)	2,798,982	90(2)～91(1)
印刷製本費	(6,600,000)	(5,271,680)	1,328,320	
通信運搬費	(1,800,000)	(1,628,580)	171,420	
編集費	(4,950,000)	(3,650,758)	1,299,242	
欧文誌刊行費	5,450,000	(5,611,071)	△ 161,071	65(2)～66(1)
印刷製本費	(4,100,000)	(4,157,658)	△ 57,658	
編集費	(1,350,000)	(1,453,413)	△ 103,413	
各種委員会等運営費	1,472,280	(592,521)	879,759	
土壤教育委員会	(1,000,000)	(425,634)	574,366	土壤教育委員会活動
広報委員会	(452,280)	(166,887)	285,393	広報活動(エコプロ出展)
その他	(20,000)	(0)	20,000	

次頁に続く

科 目	予算額	決算額	増 減	備考
学術交流費	30,000	(0)	30,000	
国際交流費	3,400,000	(1,463,526)	1,936,474	ラル先生招聘、ESAFS、IUGG、EGUブース代他
事業関係通信運搬費	100,000	(77,866)	22,134	振込手数料他
事業関係雑費	42,000	(28,000)	14,000	
事業関係業務委託費	0	(0)	0	
農学会等分担金	270,000	(351,700)	△ 81,700	日本農学会、学術協力財団他
HP管理費	156,600	(159,500)	△ 2,900	
顕彰費	700,000	(700,000)	0	学会賞、技術賞、技術奨励賞、論文賞、SSPN副賞
女性・若手支援費	1,250,000	(921,075)	328,925	奨励賞、若手支援(12名)、若手の会補助他
国際シンポジウム費	0	(0)	0	
国際土壌年事業費	100,000	(0)	100,000	
支部大会開催費	1,300,000	(2,350,221)	△ 1,050,221	
② 管理費	20,691,730	19,569,597	1,122,133	
役員報酬	2,400,000	(2,600,000)	△ 200,000	
給料手当	3,900,000	(3,787,200)	112,800	
臨時雇賃金	200,000	(0)	200,000	
退職給付費用	206,730	(212,290)	△ 5,560	退職給付引当金繰入
法定福利費	600,000	(585,574)	14,426	社会保険・労働保険
福利厚生費	95,000	(12,116)	82,884	
会議費	140,000	(190,353)	△ 50,353	
総会	110,000	(108,300)	1,700	会場費
理事会	10,000	(22,673)	△ 12,673	
部門長会	5,000	(3,569)	1,431	
選考委員会	5,000	(6,010)	△ 1,010	
選挙管理委員会	0	(0)	0	
その他会議費	10,000	(49,801)	△ 39,801	大会引き継ぎ、監査他
旅費交通費	3,500,000	(3,441,350)	58,650	
通信運搬費	800,000	(695,653)	104,347	電話FAX・切手・宅急便、代議員選挙書類送付代他
什器備品費	50,000	(0)	50,000	
消耗品費	200,000	(111,197)	88,803	
印刷製本費	400,000	(290,410)	109,590	総会資料他
事務所賃料等	3,120,000	(3,090,792)	29,208	事務所家賃・共益費
光熱水料費	250,000	(231,808)	18,192	
リース料	800,000	(604,683)	195,317	PC、FAX等
保険料	30,000	(25,520)	4,480	家賃保証
租税公課	600,000	(207,400)	392,600	消費税、均等割
業務委託費	3,300,000	(3,376,357)	△ 76,357	会員管理、会計業務
雑費	100,000	(106,894)	△ 6,894	会計ソフトサポート、貸金庫他
経常費用計	59,442,610	51,334,571	8,108,039	
当期経常増減額	△ 8,002,210	4,485,069	△ 12,487,279	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 8,002,210	4,485,069	△ 12,487,279	
一般正味財産期首残高	139,267,555	139,267,555	0	
一般正味財産期末残高	131,265,345	143,752,624	△ 12,487,279	
II 指定正味財産増減の部				
① 受取補助金等				
受取寄付金	1,000,000	316,000	684,000	国際関連活動基金
一般正味財産への振替額	0	1,100,000	△ 1,100,000	受取寄付金当期振替額(国際交流費に充当)
当期指定正味財産増減額	1,000,000	△ 784,000	1,784,000	
指定正味財産期首残高	1,033,000	1,033,000	0	
指定正味財産期末残高	2,033,000	249,000	1,784,000	
III 正味財産期末残高	133,298,345	144,001,624	△ 10,703,279	

財産目録  
2020年2月29日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>			
現金預金			
現金手許有 普通預金		運転資金として	147,884
		運転資金として	45,740,237
	みずほ銀行本郷支店(普)-1	運転資金として	( 19,580,657 )
	みずほ銀行(養賢堂)本郷支店(普)-2	運転資金として	( 20,701,381 )
	みずほ銀行本郷支店(普)-3	運転資金として	( 3,702,034 )
	三菱UFJ銀行本郷支店(普)-4	運転資金として	( 1,500,119 )
	三菱UFJ銀行本郷支店(普)-5	運転資金として	( 256,046 )
郵便振替貯金	00130-2-65874	運転資金として	14,451,372
支部現金預金			4,118,804
(1) 北海道支部		運転資金として	( 602,164 )
(2) 東北支部		運転資金として	( 885,829 )
(3) 関東支部		運転資金として	( 299,433 )
(4) 中部支部		運転資金として	( 787,115 )
(5) 関西支部		運転資金として	( 718,566 )
(6) 九州支部		運転資金として	( 825,697 )
現金預金合計			64,458,297
未収金			
(1) 会費(団体会員)		2019年度	1,280,000
(2) 会費(賛助会員)			0
(3) 会誌投稿料・別刷代		2019年度	292,768
(4) 欧文誌委託販売			0
(5) 欧文誌投稿料・別刷代			0
(6) 広告料		2019年度	99,000
未収金合計			1,671,768
流動資産合計			66,130,065
<b>(固定資産)</b>			
基本財産			
基本財産合計	みずほ銀行本郷支店(定)-1		10,000,000
特定資産			10,000,000
国際シンポジウム準備積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-1		6,170,000
女性・若手会員支援事業積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-2		17,700,000
表彰事業積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-3		2,000,000
国際関連活動基金	三菱UFJ銀行本郷支店(普)-4		249,000
退職給付引当積立預金	みずほ銀行本郷支店(定)-5		1,442,720
事務所維持等積立金	三菱UFJ銀行本郷支店(定)-6		62,160,000
特定資産合計			89,721,720
その他固定資産			
保証金			( 756,160 )
その他固定資産合計			756,160
固定資産合計			100,477,880
資産合計			166,607,945
<b>(流動負債)</b>			
未払金		会誌刊行費、会計業務費他	2,441,535
前受会費		2020年度以降分会費	14,913,000
前受金		テイラー&フランシス社 ロイヤリティ2020年度分	3,500,000
預り金		源泉税・社会保険1月~2月分	96,776
流動負債合計			20,951,311
<b>(固定負債)</b>			
(1) 退職給付引当金			1,655,010
負債合計			22,606,321
正味財産			144,001,624

貸借対照表  
2020年2月29日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	64,458,297	50,798,987	13,659,310
仮払金	0	796	△ 796
未収金	1,671,768	4,160,633	△ 2,488,865
流動資産合計	66,130,065	54,960,416	11,169,649
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	6,170,000	0
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	17,700,000	0
表彰事業積立金	2,000,000	2,000,000	0
国際関連活動基金	249,000	1,033,000	△ 784,000
退職給付引当預金	1,442,720	1,255,680	187,040
事務所維持等積立金	62,160,000	68,160,000	△ 6,000,000
特定資産合計	89,721,720	96,318,680	△ 6,596,960
(3) その他固定資産			
保証金	756,160	756,160	0
その他固定資産合計	756,160	756,160	0
固定資産合計	100,477,880	107,074,840	△ 6,596,960
資産合計	166,607,945	162,035,256	4,572,689
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	2,441,535	793,151	1,648,384
前受会費	14,913,000	15,932,500	△ 1,019,500
前受金	3,500,000	3,500,000	0
預り金	96,776	66,330	30,446
流動負債合計	20,951,311	20,291,981	659,330
2. 固定負債			
退職給付引当金	1,655,010	1,442,720	212,290
固定負債合計	1,655,010	1,442,720	212,290
負債合計	22,606,321	21,734,701	871,620
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
国際関連活動寄付金	249,000	1,033,000	△ 784,000
指定正味財産合計	249,000	1,033,000	△ 784,000
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(249,000)	1,033,000	(△784,000)
2. 一般正味財産	143,752,624	139,267,555	4,485,069
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(88,030,000)	(94,030,000)	(△6,000,000)
正味財産合計	144,001,624	140,300,555	3,701,069
負債及び正味財産合計	166,607,945	162,035,256	4,572,689

正味財産増減計算書  
2019年3月1日から2020年2月29日まで

1/2

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	847	847	0
基本財産受取利息	(847)	(847)	0
② 特定資産運用益	6,267	8,072	△ 1,805
特定資産受取利息	(6,267)	(8,072)	△ 1,805
③ 受取入会金	504,000	642,000	△ 138,000
受取入会金	(504,000)	(642,000)	△ 138,000
④ 受取会費	27,810,500	24,460,000	3,350,500
正会員受取会費	(19,915,000)	(16,512,000)	3,403,000
学生会員受取会費	(1,927,500)	(1,914,000)	13,500
団体会員受取会費	(2,000,000)	(2,060,000)	△ 60,000
欧文誌購読会員受取会費	(1,668,000)	(1,674,000)	△ 6,000
賛助会員受取会費	(2,300,000)	(2,300,000)	0
⑤ 事業収益	26,177,253	25,562,772	614,481
印刷物収入	(12,714,752)	(12,575,971)	138,781
大会収入	(10,960,566)	(10,141,462)	819,104
広告料収入	(784,800)	(777,600)	7,200
支部大会収入	(1,717,135)	(2,067,739)	△ 350,604
⑥ 受取補助金等	0	0	0
受取補助金	(0)	(0)	0
⑦ 受取助成金	0	0	0
受取助成金	(0)	(0)	0
⑧ 受取寄付金	1,202,630	505,944	696,686
受取寄付金	(102,630)	(105,944)	△ 3,314
受取寄附金振替額	(1,100,000)	(400,000)	700,000
⑨ 受託収益	0	691,200	△ 691,200
受託収益	(0)	(691,200)	△ 691,200
⑩ 雑収入	118,143	154,451	△ 36,308
受取利息	(315)	(285)	30
雑収益	(117,828)	(154,134)	△ 36,306
支部雑収入	(0)	(32)	△ 32
経常収益計	55,819,640	52,025,286	3,794,354
(2) 経常費用			
① 事業費	31,764,974	36,343,836	△ 4,578,862
年次大会開催費	(8,958,476)	(9,945,611)	△ 987,135
会誌刊行費	(10,551,018)	(12,894,925)	△ 2,343,907
欧文誌刊行費	(5,611,071)	(5,655,271)	△ 44,200
各種委員会等運営費	(592,521)	(711,847)	△ 119,326
支部交付金	(0)	(0)	0
学術交流費	(0)	(0)	0
国際交流費	(1,463,526)	(1,636,780)	△ 173,254
事業関係通信運搬費	(77,866)	(65,020)	12,846
事業関係雑費	(28,000)	(77,000)	△ 49,000
事業関係業務委託費	(0)	(775,929)	△ 775,929
農学会等分担金	(351,700)	(279,250)	72,450
HP管理費	(159,500)	(156,600)	2,900
顕彰費	(700,000)	(800,000)	△ 100,000
女性・若手支援費	(921,075)	(630,000)	291,075
国際シンポジウム費	(0)	(279,980)	△ 279,980
国際土壌年事業費	(0)	(0)	0
支部大会開催費	(2,350,221)	(2,435,623)	△ 85,402



科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費	19,569,597	18,902,442	667,155
役員報酬	(2,600,000)	(2,400,000)	200,000
給料手当	(3,787,200)	(3,732,800)	54,400
臨時雇賃金	(0)	(0)	0
退職給付費用	(212,290)	(187,040)	25,250
法定福利費	(585,574)	(47,537)	538,037
福利厚生費	(12,116)	(585,328)	△ 573,212
会議費	(190,353)	(112,732)	77,621
旅費交通費	(3,441,350)	(2,884,220)	557,130
通信運搬費	(695,653)	(1,090,769)	△ 395,116
什器備品費	(0)	(0)	0
消耗品費	(111,197)	(85,544)	25,653
印刷製本費	(290,410)	(378,468)	△ 88,058
事務所賃料等	(3,090,792)	(3,317,639)	△ 226,847
光熱水料費	(231,808)	(249,931)	△ 18,123
リース料	(604,683)	(232,946)	371,737
保険料	(25,520)	(54,520)	△ 29,000
租税公課	(207,400)	(173,300)	34,100
業務委託費	(3,376,357)	(3,269,012)	107,345
雑費	(106,894)	(100,656)	6,238
減価償却費	(0)	(0)	0
經常費用計	51,334,571	55,246,278	△ 3,911,707
当期經常増減額	4,485,069	△ 3,220,992	7,706,061
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
① 固定資産取崩益	0	0	0
② 固定資産評価益	0	0	0
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
① 雑損失	0	0	0
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,485,069	△ 3,220,992	7,706,061
一般正味財産期首残高	139,267,555	142,488,547	△ 3,220,992
一般正味財産期末残高	143,752,624	139,267,555	4,485,069
II 指定正味財産増減の部			
① 受取補助金等			
助成金収入	0	0	0
受取寄付金	316,000	1,433,000	△ 1,117,000
一般正味財産への振替額	1,100,000	400,000	700,000
当期指定正味財産増減額	△ 784,000	1,033,000	△ 1,817,000
指定正味財産期首残高	1,033,000	0	1,033,000
指定正味財産期末残高	249,000	1,033,000	△ 784,000
III 正味財産期末残高	144,001,624	140,300,555	3,701,069

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(2) 消費税等の会計処理

税込処理

2. 会計方針の変更

なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	0	0	6,170,000
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	0	0	17,700,000
表彰事業積立金	2,000,000	0	0	2,000,000
国際関連活動基金	1,033,000	316,000	1,100,000	249,000
退職給付引当預金	1,255,680	187,040	0	1,442,720
事務所維持等積立金	68,160,000	0	6,000,000	62,160,000
小 計	96,318,680	503,040	7,100,000	89,721,720
合 計	106,318,680	503,040	7,100,000	99,721,720

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	10,000,000	0
小 計	10,000,000	0	10,000,000	0
特定資産				
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	0	6,170,000	0
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	0	17,700,000	0
表彰事業積立金	2,000,000	0	2,000,000	0
国際関連活動基金	249,000	249,000	0	0
退職給付引当預金	1,442,720	0	0	1,442,720
事務所維持等積立金	62,160,000	0	62,160,000	0
小 計	89,721,720	249,000	88,030,000	1,442,720
合 計	99,721,720	249,000	98,030,000	1,442,720

5. 担保に供している資産

なし

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	1,671,768	0	1,671,768
合 計	1,671,768	0	1,671,768

7. 保証債務等の偶発債務

なし

8. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高  
なし

9. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳  
指定正味財産から一般正味財産への振替の内訳は、次のとおりである。  
(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
国際関連活動寄付金	1,100,000
経常外収益への振替額	0
合 計	1,100,000

10. 重要な後発事象  
なし

附属明細書  
2020年2月29日現在

1. 基本財産及び特定資産の明細

『 財務諸表に対する注記 』 の通り

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	1,442,720	212,290	0	0	1,655,010

2020年3月16日

## 監査報告書

一般社団法人 日本土壤肥料学会  
会長 波多野 隆介 殿

監事 深見元弘 

監事 上沢正志 

私たち監事は、2019年3月1日から2020年2月29日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法および結果について、次のとおり報告いたします。

### 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

### 2 監査意見

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書監査結果

計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

#### (3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は法令又は定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

## 第2号議案 2020年度事業計画および収支予算案

### I. 2020年度事業計画

#### 1. 定期刊行物および資料の刊行

##### (1) 定期刊行物

日本土壌肥料学雑誌（第91巻第2号～第6号および第92巻第1号の計6冊、A4判）、SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION（Vol.66, No.2～No.6およびVol.67, No.1の計6冊、A4判）を刊行し、2020年度岡山大会に際して日本土壌肥料学会講演要旨集（第66集）を電子版として刊行する。

##### (2) その他の刊行物

Springer社よりThe Soils of Japanを刊行予定である。

#### 2. 講演会および研究会等の開催、支援

##### (1) 「土と肥料」の講演会

2020年5月9日（土）、総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「食と農の将来を支える土と肥料：スマート農業と土づくり」とし、講演者と演題は、安岡澄人氏「肥料取締法の改正が目指すもの」および藤井弘志氏「ICT技術を活用した近未来の稲作生産システム」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

##### (2) 2020年度年次大会

2020年9月8日（火）～10日（木）、倉敷市芸文館・倉敷市立美術館（一般講演、シンポジウム、学会賞等授賞式・記念講演）において年次大会を開催する。学会賞等授賞式、受賞記念講演、懇親会は9日（水）に行う。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員に公募し、これを基に部門長会議で検討して設定することとしている。

学会賞等授賞式では、第65回日本土壌肥料学会賞3名、第25回同技術賞2名、第38回同奨励賞5名、第9回同技術奨励賞1名、第9回同貢献賞1名に各賞を授与する。また、貢献賞以外の各賞受賞者の記念講演を行う。論文賞2件およびSSPN Award 1件の受賞者については、各賞を授与するとともに、受賞記念ポスターを展示する。

##### 第65回 日本土壌肥料学会賞受賞者

- ・浅川 晋：水田土壌生態系におけるメタンの生成・酸化に関わる微生物の生態に関する研究
- ・俵谷圭太郎：菌根共生系のリン応答と持続的作物生産・環境修復への応用研究
- ・藤嶽暢英：腐植物質の分析法、特徴付けおよび反応性に関する研究

##### 第25回 日本土壌肥料学会技術賞

- ・柴原藤善：水田生態系における土壌微生物バイオマス窒素の動態解明と環境負荷低減技術の開発および琵琶湖流域における水質保全効果の定量的

## 評価

・須藤重人：農耕地温室効果ガスの高精度測定法開発と温暖化緩和策研究への活用  
第 38 回 日本土壌肥料学会奨励賞受賞者

- ・一家崇志：チャのゲノム情報整備と栄養生理学に関する研究
- ・泉 正範：オートファジーによる葉緑体の分解経路に関する研究
- ・田中伸裕：イネの無機栄養吸収蓄積と成長制御に関する分子生理遺伝学的研究
- ・李 哲揆：土壌中の有機物由来の炭素循環と、有機物施用による植物病害の抑止に関わる微生物の研究
- ・山本昭範：農耕地における一酸化二窒素の生成経路の解明と発生削減策に関する研究

第 9 回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・蓮川博之：水田農業における温室効果ガス排出量削減技術の開発とその定量評価

第 9 回日本土壌肥料学会貢献賞受賞者

- ・原田靖生：変革期における新たな学会運営に向けた諸対応

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・江口定夫、平野七恵：日本の消費者の食生活改善による反応性窒素排出削減ポテンシャルと国連 SDGs シナリオに沿った将来予測
- ・南雲俊之、森田明雄：茶園のもつ二酸化炭素吸収源機能

SSPN Award 受賞者

- ・Yoko Masuda, Hideomi Itoh, Yutaka Shiratori, Keishi Senoo :  
Metatranscriptomic insights into microbial consortia driving methane metabolism in paddy soils

### (3) 支部大会等

- ・北海道支部：第 20 回日本土壌肥料学会北海道支部野外巡検(時期・場所未定)および 2020 年度秋季支部大会・支部総会(11 月下旬～12 月上旬、とかちプラザ(帯広市))を主催する。また、第 1 回支部評議員会(6 月上旬 北海道大学)、第 2 回支部評議員会(11 月下旬～12 月上旬、秋季支部大会の昼休み時間)を開催する。
- ・東北支部：2020 年度東北支部大会、支部役員会および支部総会を開催する(7/7～8 宮城県仙台市)。また、支部大会に際し、講演要旨集の刊行を予定。
- ・関東支部：関東支部大会、支部幹事会および支部総会を開催する(11 月下旬～12 月上旬の土曜日、埼玉県内)。
- ・中部支部：第 81 回中部支部総会、第 100 回支部例会を開催する(11 月 金沢市内)。また、第 166 回支部評議員会(5 月・名古屋市内)、第 167 回支部評議員会(11 月中部土壌肥料研究会と同時開催 金沢市内)を開催する。
- ・関西支部：関西支部講演会(12 月初旬)および支部役員会(講演会の翌日)を開催する(日程、会場は未定)。
- ・九州支部：九州支部例会、支部賞選考委員会、2020 年度支部常議員会並びに支部総会を開催する(8～9 月 宮崎県)。
- ・支部長連絡会：本部・支部間、支部間の連携促進のため、岡山大会期間に情報共

有と意見交換を行う連絡会を開催する。

### 3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第 66 回日本土壌肥料学会賞、第 26 回同技術賞、第 39 回同奨励賞、第 10 回同技術奨励賞、第 10 回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

### 4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連携および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い学術交流・国際交流を図る。

- ・第6回土壌分類に関する国際会議（ICSC：メキシコ・ケレタロ、4月）へ担当者を派遣する。
- ・日本地球惑星連合（JpGU）2020年連合大会セッション「Material transportation and cycling in aquatic ecosystems; from headwaters to coastal areas」（5月）を共催する。
- ・ヨーロッパ地球科学連合大会（EGU：ウィーン、5月）に代表者を派遣する。
- ・チリ土壌学会（チリ・サンチャゴ、5月）へのIUSS会長の出席を支援する。
- ・Global Conference on Sandy Soils（アメリカ・マディソン、6月）へ代表者を派遣し、IUSS会長の出張を支援する。
- ・第30回環境工学総合シンポジウム（6/24～26）を協賛する。
- ・第57回アイソトープ・放射線研究発表会（7/7～9東京大学弥生講堂）を協賛する。
- ・IUSS 中間会議（英国・グラスゴー、8月末～9月）へ学会代表者およびChair/Vice Chair担当の学会を派遣し、IUSS会長の出張を支援する。
- ・塩性土壌の修復に関する国際会議（中国・長春、9月）へのIUSS会長の出張を支援する。
- ・2020年酸性雨国際会議（Acid Rain 2020、新潟、10月）を共催する。

また、「国際土壌の10年（2015～2024）」における諸活動を進めるとともに、2019年度に開設した ESAFS サポートオフィス HP を活用して情報を共有・発信する。これら国際交流を円滑に行うための寄付活動を継続する。

### 5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。また、「国際土壌の10年」に関連した事業を企画する。
- ・土壌教育委員会：①岡山大会において高校生による研究発表会を実施する（9/8～10）。②教員研修およびその他の普及事業を行う（時期・場所 未定）。
- ・財政基盤整備委員会：①引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、収支バランスの改善を図る。② 2019年10月の消費増税に伴い2021年3月末までが猶予期間となっている総額表示などへの対応について、関係



理事と連携して学会財政全般に配慮しつつ、検討を進める。

- ・ 広報：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②Facebook 等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロ 2020 にブースを出展する。④土壌教育委員会、部門長会議、岡山大会運営委員会、関西支部と連携し、岡山大会において「土壌モノリス展：美しい土の世界」を開催する。

#### 6. その他、本学会の目的達成のための事業

- ・ 外部からの顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・ 規程に基づき、若手正会員及び学生会員の海外学会参加渡航費の一部を支援する。
- ・ 各理事担当の年間業務を整理し、円滑化を図る。

## Ⅱ. 2020 年度収支予算案

### 一般正味財産増減の部

#### 1. 経常増減の部の経常収益

前年度予算額よりも 22 万円増の 5,165 万円を見込んでいる。主な増減は以下のように見込まれる。

(1) 前年度に比べて増加が見込まれる科目

- ⑤事業収益／大会収入／参加料は、参加者増により 48 万円増の 558 万円
- 同／大会収入／雑収入は、協賛費増により 53 万円増の 336 万円を見込んでいる。

(2) 前年度に比べて減少が見込まれる科目

- ④受取会費／正会員受取会費は前年度予算額よりも 63 万円減の 1,813 万円。
- ⑤事業収益／会誌投稿料・別刷り代等は前年度予算額よりも 80 万円減の 190 万円。

#### 2. 経常増減の部の経常費用

前年度予算額よりも 151 万円増の 6,095 万円を見込んでいる。主な増減は以下のように見込まれる。

(1) 前年度に比べて増加が見込まれる科目

- ①事業費／年次大会開催費は、101 万円増の 1,214 万円
- 同／国際交流費は、IUSS 会長派遣、ESAFS 対応などで 20 万円増の 360 万円。
- 同／支部大会開催費は 70 万円増の 200 万円。

(2) 前年度に比べて減少が見込まれる科目

- ①事業費／各種委員会等運営費／土壌教育委員会は 20 万円減。
- ②管理費／臨時雇い賃金は 20 万円減。

これらのことから、当期経常増減額は-930 万円の赤字が見込まれる。前年度経常増減額-800 万円に比べて赤字が増えたのは、会員減による受取会費の減少と経常費用において消費税増税などによる経費の増加が考えられる。会員数の減少は続いているので、次年度以降もいっそうの節制に努めるとともに、計画した事業の実施についても収支の状況をみながら検討する必要がある。

一方、計画した事業の実施を円滑に推進するためには、来年度も寄付を募るなどの

収益増を図る必要がある。会員各位のご理解、ご協力をお願いしたい。

### **指定正味財産増減の部**

国際関連活動基金とし 50 万円の受取寄付金を見込んでいる。

以上の結果から、正味財産期末残高は 191 万円増の 1 億 3,520 万円が見込まれる。

## (一社) 日本土壤肥料学会2020年度収支予算書(損益ベース) (案)

2020年3月1日から2021年2月28日まで

1/3

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	400	400	0	
基本財産受取利息	(400)	(400)	0	
② 特定資産運用益	10,000	10,000	0	
特定資産受取利息	(10,000)	(10,000)	0	
③ 受取入会金	450,000	510,000	△ 60,000	
受取入会金	(450,000)	(510,000)	△ 60,000	3,000円×150人(-20名)
④ 受取会費	25,625,000	26,560,000	△ 935,000	
正会員受取会費	(18,125,000)	(18,750,000)	△ 625,000	12,500円×1,450人(-50名)
学生会員受取会費	(1,950,000)	(2,100,000)	△ 150,000	7500円×260人(-20名)
団体会員受取会費	(1,800,000)	(1,900,000)	△ 100,000	20,000円×90団体(-5団体)
欧文誌購読会費	(1,500,000)	(1,560,000)	△ 60,000	6,000円×250人(-10名)
賛助会員受取会費	(2,250,000)	(2,250,000)	0	50,000円×45口
⑤ 事業収益	25,410,000	24,200,000	1,210,000	
会誌刊行等事業収益	(10,570,000)	(11,370,000)	△ 800,000	
会誌委託販売	(1,000,000)	(1,000,000)	0	
会誌投稿料・別刷り代等	(1,900,000)	(2,700,000)	△ 800,000	91(2)~92(1)
会誌バックナンバー等	(0)	(0)	0	
欧文誌委託販売	(3,500,000)	(3,500,000)	0	Taylor & Francis
欧文誌投稿料・別刷り代等	(4,150,000)	(4,150,000)	0	66(2)~67(1)
欧文誌バックナンバー等	(0)	(0)	0	
講演要旨集(大会時外)	(0)	(0)	0	バックナンバー等
その他印刷物	(0)	(0)	0	
出版物印税	(20,000)	(20,000)	0	博友社印税
大会収入	(12,140,000)	(11,130,000)	1,010,000	岡山大会運営委予算案に基づく
参加料	(5,580,000)	(5,100,000)	480,000	
発表料	(550,000)	(550,000)	0	
講演要旨集(大会時)	(0)	(0)	0	
懇親会費	(2,650,000)	(2,650,000)	0	
雑収入	(3,360,000)	(2,830,000)	530,000	協賛金等
広告料	(900,000)	(900,000)	0	
支部大会収入	(1,800,000)	(800,000)	1,000,000	支部雑収入の仕分け先の変更
⑥ 受取補助金等		0	0	
受取補助金		(0)	0	
⑦ 受取助成金		0	0	
受取助成金		(0)	0	
⑧ 受取寄付金	110,000	110,000	0	
受取寄付金	(110,000)	(110,000)	0	SSPN Award副賞(Taylor & Francis)
受取寄附金振替額			0	
⑨ 受託収入		0	0	
受託金		(0)	0	
⑩ 雑収入	50,000	50,000	0	
受取利息	0	0	0	
雑収益	(50,000)	(50,000)	0	
支部雑収入		(0)	0	
経常収益計	51,655,400	51,440,400	215,000	
(2) 経常費用				
① 事業費	40,338,600	38,750,880	1,587,720	
年次大会開催費	12,140,000	11,130,000	1,010,000	岡山大会運営委予算案に基づく
会場費	(1,800,000)	(400,000)	1,400,000	規定に基づく
人件費	(1,160,000)	(1,200,000)	△ 40,000	学生アルバイト
運営費	(291,360)	(800,000)	△ 508,640	機材、運営諸費用
年次大会管理費	(4,929,540)	(4,900,000)	29,540	HP作成・運営、登録受付、演題要旨受付/後処理等
大会関係印刷費	(584,100)		584,100	参加証・案内書・プログラム印刷費等
懇親会費	(2,655,000)	(2,650,000)	5,000	
その他雑費	(720,000)	(1,180,000)	△ 460,000	会議費、託児所設置等

次頁に続く

科 目	予算額	前年予算額	増 減	備考
会誌刊行費	13,270,000	13,350,000	△ 80,000	91(2)～92(1)
印刷製本費	(6,600,000)	(6,600,000)	0	
通信運搬費	(1,800,000)	(1,800,000)	0	
編集費	(4,870,000)	(4,950,000)	△ 80,000	国際文献社編集費、査読システム利用料等
欧文誌刊行費	5,450,000	5,450,000	0	66(2)～67(1)
印刷製本費	(4,100,000)	(4,100,000)	0	
通信運搬費	(0)	(0)	0	
編集費	(1,350,000)	(1,350,000)	0	
各種委員会等運営費	1,110,000	1,472,280	△ 362,280	
土壌教育委員会	800,000	1,000,000	△ 200,000	土壌教育委員会活動
広報委員会	310,000	452,280	△ 142,280	広報活動(エコプロ出展他)
その他	20,000	20,000	0	男女共同参画学協会会費、資料代等
学術交流費	70,000	30,000	40,000	土と肥料の講演会 他
国際交流費	3,600,000	3,400,000	200,000	
事業関係通信運搬費	100,000	100,000	0	
事業関係雑費	42,000	42,000	0	岡山大会シンポジウム非会員演者懇親会参加費
事業関係業務委託費	0	0	0	
農学会等分担金等	270,000	270,000	0	日本農学会分担金、日本学術協力財団
HP管理費	156,600	156,600	0	HP更新、メルマガ運用
顕彰費	780,000	700,000	80,000	学会賞、技術賞、技術貢献賞 他
女性・若手支援費	1,250,000	1,250,000	0	奨励賞、渡航支援、若手の会補助 他
国際シンポジウム費	0	0	0	
国際土壌年事業費	100,000	100,000	0	
支部大会開催費	2,000,000	1,300,000	700,000	支部大会補助
② 管理費	20,613,000	20,691,730	△ 78,730	
役員報酬	2,400,000	2,400,000	0	
給料	3,900,000	3,900,000	0	
法定福利費	600,000	600,000	0	労働保険・社保
福利厚生費	95,000	95,000	0	健診等
臨時雇い賃金	0	200,000	△ 200,000	
会議費	150,000	140,000	10,000	
総会	(110,000)	(110,000)	0	山上会館
理事会	(10,000)	(10,000)	0	
部門長会	(5,000)	(5,000)	0	
選考委員会	(5,000)	(5,000)	0	
選挙管理委員会	(10,000)	(0)	10,000	
その他会議費	(10,000)	(10,000)	0	
旅費・交通費	3,600,000	3,500,000	100,000	消費税値上げ分加算
通信運搬費	820,000	800,000	20,000	消費税値上げ分加算
什器備品費	50,000	50,000	0	
消耗品費	204,000	200,000	4,000	消費税値上げ分加算
印刷製本費	410,000	400,000	10,000	総会資料等消費税加算
事務所賃料等	3,190,000	3,120,000	70,000	家賃等12ヶ月分消費税加算
光熱水料費	250,000	250,000	0	
リース料	700,000	800,000	△ 100,000	PC、FAX等(見込み決算より)
保険料	30,000	30,000	0	建物の損害保険料
租税公課	500,000	600,000	△ 100,000	消費税、法人税、他(実績より)
業務委託費	3,400,000	3,300,000	100,000	会員管理、会計業務消費税値上げ加算
雑費	100,000	100,000	0	
退職給付引当金繰入	214,000	206,730	7,270	
経常費用計	60,951,600	59,442,610	1,508,990	
当期経常増減額	△ 9,296,200	△ 8,002,210	△ 1,293,990	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
① 雑収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	

次頁に続く

科 目	予算額	前年予算額	増 減	備考
(2) 経常外費用				
① 雑損失	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 9,296,200	△ 8,002,210	△ 1,293,990	
一般正味財産期首残高	143,752,624	139,267,555	4,485,069	
一般正味財産期末残高	134,456,424	131,265,345	3,191,079	
II 指定正味財産増減の部				
① 受取補助金等				
助成金収入			0	
受取寄付金	500,000	1,000,000	△ 500,000	
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	500,000	1,000,000	△ 500,000	
指定正味財産期首残高	249,000	1,033,000	△ 784,000	
指定正味財産期末残高	749,000	2,033,000	△ 1,284,000	
III 正味財産期末残高	135,205,424	133,298,345	1,907,079	

## 参考

### 2020 年度役員、代議員等一覧

#### 役員（19名）

会長	波多野隆介
副会長	妹尾啓史・齋藤雅典
常務理事（常勤）	木村 武
会計担当理事	相崎万裕美・渡邊浩一郎
会誌担当理事	竹本 稔・永田 修
欧文誌担当理事	青野俊裕・齋藤勝晴
渉外担当理事	矢内純太・大塚重人・松浦里江
部門長会議担当理事	金澤健二
広報担当理事	高野順平・加藤 拓
教育担当理事	横山（赤羽）幾子
監事	深見元弘・上沢正志

#### 代議員（100名）

##### （北海道支部 定員 11名）

石黒宗秀、岡 紀邦、奥村正敏、三枝俊哉、澤本卓治、志賀弘行、竹内晴信、谷 昌幸  
中辻敏朗、松本武彦、渡部敏裕

##### （東北支部 定員 11名）

青山正和、金田吉弘、信濃卓郎、鈴木雄二、高橋 正、高橋智紀、中川進平、西田瑞彦  
藤井弘志、牧野 周、牧野知之

##### （関東支部 定員 40名）

秋山博子、荒尾知人、安西徹郎、石川 覚、伊藤豊彰、犬伏和之、江口定夫、大島宏行  
太田寛行、大谷 卓、大友 量、大山卓爾、岡崎正規、加藤直人、金子文宜、鎌田 淳  
上山紀代美、川東正幸、久保寺秀夫、後藤逸男、白戸康人、新町文絵、隅田裕明、高橋令二  
田中治夫、豊田剛己、鳥山和伸、長坂克彦、新良力也、野口 章、長谷川功、原田久富美  
樋口恭子、平井英明、藤原俊六郎、藤原 徹、前島勇治、山口紀子、横山 正、吉川省子

##### （中部支部 定員 11名）

浅川 晋、一家崇志、磯井俊行、小川直人、糟谷真宏、齋藤明広、瀧 勝俊、日置雅之  
原 正之、村瀬 潤、渡邊 彰

##### （関西支部 定員 17名）

岩崎貢三、上野秀人、内山知二、遠藤常嘉、小林 優、実岡寛文、真常仁志、田中壮太  
中尾 淳、藤間 充、藤嶽暢英、牧 浩之、馬 建鋒、増永二之、間藤 徹、横山和平  
和崎 淳

##### （九州支部 定員 10名）

上野大介、荒川祐介、古賀伸久、佐伯雄一、境 雅夫、正司和之、染谷 孝、樗木直也  
平舘俊太郎、山川武夫

## 部門長

(第1部門) 江口定夫                      (第2部門) 高橋 正                      (第3部門) 大友 量  
(第4部門) 馬 建鋒                      (第5部門) 小原 洋                      (第6部門) 矢内純太  
(第7部門) 柴原藤善                      (第8部門) 白戸康人                      (第9部門) 平井英明

## 支部長

北海道 岡 紀邦                      東北 木村和彦                      関東 太田寛行  
中部 小山博之                      関西 上野秀人                      九州 佐伯雄一

## 会誌編集委員会

委員長 高橋 正

常任編集委員 諸 人誌、井上博道、蓮川博之、松田 晃、石塚成宏、前田守弘、中村真人、  
山口紀子、一家崇志、井上 弦、中野恵子、森塚直樹

地域担当編集委員

北海道 中村卓司、中本 洋、中丸康夫                      東北 山本岳彦、齋藤 隆、西田瑞彦  
関東 大脇良成、八島未和、山田和義                      中部 浅川 晋、瀧 勝俊、稲原 誠  
関西 牧 浩之、大家理哉、上野秀人                      九州 佐伯雄一、新美 洋、宮丸直子

## 欧文誌編集委員会

委員長 牧野知之

国内編集委員 妹尾啓史、小山博之、信濃卓郎、江口定夫、望月秀俊、飯山一平、濱本昌一郎、  
森 裕樹、小林孝行、高橋 正、加藤 拓、青野俊裕、齋藤明広、池永 誠、杉原 創、大友 量、  
渡邊健史、小八重善裕、馬 建鋒、丸山明子、鈴木雄二、和崎 淳、山地直樹、神谷岳洋、  
三輪京子、渡邊哲弘、今矢明宏、矢内純太、西田瑞彦、伊ヶ崎健大、原 嘉隆、佐々木由佳、  
柴原藤善、加藤雅彦、中辻敏朗、佐野修司、上野秀人、浦川梨恵子、森 昭憲、南川和則、  
須田碧海、白戸康人、当真 要、藤間 充、

海外編集委員 Reiner Wassmann、Randy A. Dahlgren、Xiaoyuan Yan、Jae E. Yang、  
Zucong Cai、Ping He、Yong-Guan Zhu、Sanjb Kumar Panda、Miftahudin、  
Audthasit Wongmaneroj、Bentio Heru Purwanto、Georg Guggenberger

## 土壌教育委員会

委員長 隅田裕明

副委員長 森 圭子                      事務局長 藤間 充                      顧問 福田 直、平井英明

委員 村野宏達、齋藤雅典、三枝俊哉、早川 敦、浅野眞希、浅川 晋、豊田 鮎、浅野陽樹

## 2020年度年次大会(岡山)運営委員会

運営委員長：馬 建鋒

事務局長：前田守弘

会 計：三谷(上野)奈見季、清水裕太

運営委員：浅見秀則、石岡 徹、大家理哉、笠原賢明、且原真木、佐々木孝行、嶋 一徹、  
志村もと子、土屋善幸、松森堅治、望月秀俊、森 伸介、森也寸志、山地直樹、  
山本章吾、横正健剛、横山理英



